

水稻・大豆栽培情報 7月号

令和7年6月12日
JA柳川
南筑後普及指導センター

【水稻】

1 麦わらすき込みほ場の水管理

麦わらをすき込んだほ場では、ガスが発生し、稻の活着が悪くなることがあるため、水管理を徹底します。

田植え後、初中期一発除草剤散布までの間は浅水とします。

初中期一発除草剤散布後1週間は湛水し、その後は間断かん水（3～4日おきに湛水と落水を繰り返す）をして、ガス抜きを促進します。

2 雜草防除

田植え後の初中期一発除草剤を使用しても、雑草が残る場合は、雑草の種類に応じた以下のいずれか1剤を下記の要領で散布します。

雑草の種類	薬剤名	使用量 (10a当たり)	使用時期	収穫前日数
イネ科雑草	クリンチャー 1キロ粒剤	1kg (湛水散布)	移植後7日～ ノビエ4葉期	30日前まで
		1.5kg (湛水散布)	移植後25日～ ノビエ5葉期	30日前まで
広葉雑草	バサグラン粒剤	3～4kg (落水散布)	移植後15日～	45日前まで
イネ科・ 広葉雑草	レプラス ジャンボ	10パック (湛水散布)	移植後14日～ ノビエ4葉期	60日前まで
	ハイカット 1キロ粒剤	1kg (湛水散布)	移植後15日～ ノビエ3.5葉期	60日前まで
	クリンチャー バスME液剤	1000ml (水70～100L) (落水散布)	移植後15日～ ノビエ5葉期	50日前まで

3 中干し

株当たりの茎数が20本程度（移植後1か月程度）になったら、中干しを行います。中干しは無効分げつの抑制や倒伏防止のため、必ず実施します。中干しの程度は、田面に小さな亀裂が入り、軽く足跡がつくくらいです。田面が白く乾かないよう注意します。

近年は高温の影響で、水稻の初期生育が早まっており、中干しが遅れているほ場が多くみられます。

※「実りつくし」は、倒伏しやすいため田面が白乾しない範囲で“強めの中干し”を実施しましょう。

【大豆】

1 播種

大豆の収量向上には「適期播種」が重要です。

確実に100%種子更新を行います。異品種混入とならないように気を付けましょう。

播種期	7月1日～20日 (適期播)	7月21日～ (遅播)
株間	30～20cm	15～10cm
播種量 (10a当たり)	3～5kg	6～9kg

※1株2粒播

- 適期播種のため、組作業または部分浅耕一工程播種により、播種を行います。
※事前の荒起こしを行った場合、降雨があると、ほ場が乾かず播種が遅れます。また、逆に晴天が続くと、過乾燥となり出芽不良となるため、注意します。
- 播種深度は3cm程度の深さを基本とし、土壤の水分状態に応じて調整します。
- 晴天が続く場合はやや深め (5～6cm程度) とします。

2 雜草防除

使用時期	薬剤名	使用量 (10a当たり)	希釀水量	備考
播種後 ～出芽前	ラクサー粒剤	4～8kg	—	いずれか一剤 を使用
	ラクサー乳剤	400～800ml	100L	
	プロールプラス乳剤	400～600ml	100L	
	フルミオWDG ホオズキ・ケイトウ対策	5～10g	100L	ラクサー乳剤又は プロールプラス乳剤 との混用

- 除草剤散布時に覆土が不十分な場合や散布前後にまとまった降雨があった場合は、薬害で大豆の出芽が抑制されることがあります。また、碎土が不十分な場合やほ場が乾燥している場合には、除草剤の効果が劣ることがあるため、注意します。

3 中耕・培土

本葉2～4枚の頃に1回実施します。

雑草抑制効果が大きく、薬剤防除と合わせることで、さらに効果が高まります。

また、生育の促進や、排水性の向上、倒伏抑制に効果があります。

4 その他

除草剤を使用する時は、隣接するほ場に飛散しないよう十分に注意します。

強風時には散布を避け、ドリフト低減ノズル等により飛散防止に努めます。

農薬使用上の注意

- 散布前に必ず農薬ラベル (①適用作物、②使用量や希釀倍数、③使用時期や総使用回数、④有効期限) を確認！
- 散布時には近隣作物や住宅街への飛散防止対策を徹底！
- 散布後は必ず散布器具(タンク、ホース等)を洗浄！
- 防除履歴の正確な記帳！